

学校法人 青山学院
2013年度 事業計画書



学校法人 青山学院

(2013年3月21日 理事会承認)

目次

2013 年度 事業計画書作成にあたって	2
2013 年度 学校法人青山学院事業計画 基本方針	3
I. 人間教育の再創造	
1. キリスト教教育の促進	4
2. 教育力の向上	5
3. 一貫教育の充実	
1) 各設置学校間の連携強化	5
2) 4-4-4 制英語一貫教育の実践	6
4. 国際交流の活性化	6
II. 環境の整備	
1. キャンパスの再開発	
1) 教育課程移行に伴うキャンパスの整備	7
2) 新図書館棟の建築	7
3) 高等部校舎の建て替え	7
4) 中等部校舎の建て替え	7
5) 既存施設の整備	7
2. 学生への支援	
1) 学習支援	8
2) 経済的支援	8
3) 進路・就職への支援	8
4) ボランティア活動の支援	9
3. 教職員への支援	9
4. 学院史編纂と学院史資料展示への取り組み	9
III. 戦略の強化	
1. 危機管理	
1) 大災害対策	10
2) 園児・児童・生徒・学生の学内外の安全強化	10
2. 財務力の強化	10
3. 組織・運営体制の強化	
1) 広報体制の強化	11
2) 入試広報体制の強化	12
3) 企画立案機能の強化	12
4) 事務組織の再編	12
5) 情報系の整備	12
6) 人事制度の見直し	13
4. 校友との連携強化	13
(巻末)2013 年度事業計画一覧	14

2013 年度 事業計画書作成にあたって

1874(明治 7)年に米国のメソジスト監督教会の信仰と祈りをもって派遣された宣教師たちにより始められた青山学院では、長い歴史をとおり、「キリスト教信仰にもとづく教育」という創立当初からの理念は揺らぐことなく連綿と続いており、幼稚園から大学・大学院までを擁する日本有数の教育機関に成長した現在も、先達たちの努力にならい、常に良い教育を目指して取り組みを続けております。その一方で、昨今、私立学校を取り巻く環境は、長引く経済の低迷、国際的な競争の激化、少子高齢化等、かつてない厳しい状況が続いており、青山学院がおかれている環境変化も例外ではありません。また、一昨年 3 月に未曾有の大災害をもたらした東日本大震災の影響もいまだ薄れることなく、被災地では引き続き厳しい状況下に置かれている現状があります。青山学院では、被災者の皆様へ心からの祈りをささげ、今までどおり息の長い支援を継続するとともに、経営基盤の維持・強化を図りながら質の高い教育・研究活動を目指してまいります。

本年度、大学においては、人文・社会科学系 6 学部(文学部、教育人間科学部、経済学部、法学部、経営学部、国際政治経済学部)の 1,2 年生、及び総合文化政策学部の 1 年生、計約 7,000 人を相模原キャンパスから青山キャンパスに移行する「就学キャンパス再配置」が実施され、1982 年以來 31 年ぶりに人文・社会科学系の 1~4 年生の学生が青山キャンパスに集うこととなります。これにより、理工学部、社会情報学部の 2 学部の 1~4 年生が配置されている相模原キャンパスと共に、両キャンパスで全学年を通じた教育の連続性が確立されます。この新しい体制が、学生にとっても教職員にとっても大いなる刺激となることは間違いなく、新たな出会いとそこから生まれる強い絆が二つのキャンパスを個性的に彩り、学生の無限の可能性がぶつかりあい育みあう場となることを願いながら、一層の教育力の向上と環境の整備に努めてまいります。

青山学院では、2012 年度より、より良い教育・研究の実践に向け、新たな体制での事業計画への取り組みを開始しましたが、2013 年度も PDCA サイクルに沿った同様の体制の下、学院全体でより強力に計画への取り組みを推進し、更なる改善と発展につなげてまいります。具体的な内容につきましては、本計画書に記載されておりますのでご確認ください。

なお、本計画書の中には、幼稚園から大学・大学院までの各設置学校及び各事務部署が策定した 2013 年度事業計画の中から、「2013 年度 学校法人青山学院事業計画 基本方針」に合致する計画を中心に掲載しておりますが、主要なテーマにつきましては、定例業務として見直しや改善を行いながら毎年実施されているものも含まれていますのでご注意ください。

より一層の改善と発展のため 2013 年度も教職員一丸となって事業計画の実現に邁進してまいりますので、ご支援・ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2013年度 学校法人青山学院事業計画 基本方針

- ◆ 教育の基本となるキリスト教について、学院に関わる一人ひとりの理解を深め、各設置学校が掲げる教育理念にもとづいた教育の実現を図る
- ◆ 学院発展のため、財務力、組織・運営体制の強化を図る
- ◆ 国際理解教育を充実させる
- ◆ 青山キャンパスの再開発を着実に推進する
- ◆ 学生への支援(学習支援、経済支援、進路・就職支援等)を強化する
- ◆ 「キャンパスの安全・安心」を第一に、災害対策を主とした危機管理の強化を図る
- ◆ 大学における2013年度キャンパス再配置を円滑に実施する

I. 人間教育の再創造

1. キリスト教教育の促進

建学の精神の根幹を成すキリスト教教育の実践のため、青山学院では、「礼拝」「授業」「キリスト教活動」の三つの領域について年齢に見合ったプログラムを実施し、一人ひとりが神に愛されているかけがえのない存在であることを学んでいます。また、こうしたキリスト教教育を促進するため、園児・児童・生徒・学生に限らず、保護者や教職員がキリスト教に触れ、親しむ機会を増やしていきけるような取り組みも続けています。それぞれの学校で日常として様々な取り組みが行われている中、2013年度事業計画としては下記の取り組みを進めていきます。

【学院】

- ・各設置学校の礼拝において、礼拝説教者・奨励者の交流を行います。また大学聖歌隊や大学ハンドベルクワイアも他の設置学校での礼拝奉仕を行い、交流を進めていきます。この活動により学院全体のキャンパスミニストリーへの理解を深めると同時に、礼拝参加者に各設置学校の垣根を超えた「青山学院の一員」としての自覚を促し、礼拝出席への意欲を高める一助としていきます。
- ・青山・相模原両キャンパスで週一回実施している職員を対象とした聖書に親しむ会への積極的な参加を呼びかけ、職員の「建学の精神への理解」につなげていきます。
- ・幼稚園、初等部、中等部、高等部の各設置学校の園長、部長、主事、宗教主任、宗教委員等と近隣教会の懇談会を実施し、近隣教会との協力関係をより強め、より充実したキリスト教教育の実現を目指します。
- ・東日本大震災から1週間後の2011年3月18日に、学院関係者が集い東日本大震災・原発事故の被災者の方々に覚えて初めての祈祷会が持たれて以来、青山学院では、この祈祷会を定期的に行っています。2013年度も引き続き毎月11日に祈祷会を持ち、祈りにおける絆を堅持します。

【大学】

大学の就学キャンパス再配置により、約7,000人の学生が相模原キャンパスから青山キャンパスへ移行することに伴い、両キャンパスにおけるキリスト教活動にも大きな変化がもたらされます。2013年度は、このような環境変化に対応したキリスト教活動へ向け充実化を図ります。

【高等部】

- ・被災地宮古高校の生徒の皆さんへの「復興への励まし」に少しでもつながること、また被災地を訪問した本学高等部生たち一人ひとりが、キリスト教教育の「助けを必要とする人の隣人となる」という聖書の教えを実践的に捉え大きな学びとすることを期待して始めた両校の交流も、3年目を迎えます。2013年度は野球部が親善試合のため宮古高校を訪問するほか、恒例となった宮古高校生徒会執行部の高等部文化祭への参加により、双方の生徒の絆をより強いものとしていきます。
- ・世界の貧困の問題について考える機会を持つことは、豊かな心と広い視野を持つ人物の育成に大変重要な役割を担うというキリスト教教育の観点から、高等部では2013年3月、CFJ(チャイルド・ファンド・ジャパン)フィリピン訪問プログラムに初めて参加しました。今後の参加をより実り多いものとし、社会の問題に取り組むことのできるリーダーの育成を図るため、2013年度は教員と生徒を交えたフィードバックの会を行うほか、プログラムに参加した生徒を中心に継続的に貧困の問題を生徒に考えさせる学習会を開催する等、プログラムに関する啓蒙を行います。

【幼稚園】

キリスト教信仰を基底とする保育を行う幼稚園として、保育者の信仰の涵養は重要です。神様の恵みに立って園児との関わりを豊かなものにするため、2013年度は保育者のキリスト教への共通の理解を深めることを目標に祈りの会の回数を増やし、保育の精神的一致につなげていきます。

2. 教育力の向上

青山学院が目指すキリスト教を基盤とした教育と、社会や時代の要請に応える教育力を充実・堅持するため、下記の取り組みを計画しています。

【大学】

- ・「共に学び、探求し、世界に発信する大学」を目指し、教育力の向上を図るために、教育内容の強化と実質化、青山スタンダード教育の強化等に取り組みます。青山スタンダード科目として海外留学支援のための英語資格講座や海外語学文化研修(4.国際交流の活性化にて後述)の実施や、文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」としてキャリア教育科目の開発を行います。また、「キリスト教理解関連科目」では、コア科目とテーマ別の科目の担当者が参加する担当者会を開催し、模擬授業の実施や授業改善のための多種多様な意見交換を行っています。2013年度も板書授業の効用や効果的な配布資料の作成方法など、各自の講義経験を分かち合いつつ、一人ひとりの講義力と教育力向上につなげています。
- ・教育の質的向上を目指す取り組みとして、本学では独自の学内公募による「教育改善・教育プログラム支援制度」を実施し、教育の改善・改革を進めています。優れた教育プログラムの共有と新たな教育プログラムの開発を支援していきます。

【中等部】

基礎学力をしっかりと身につけることは中等部の教育目標の一つです。生徒の誰もが楽しく学べる授業を行うため、2013年度は学力差の大きい「英語」「数学」について、放課後に、学生アシスタントによる学習補助プログラムを実施し、学力の向上を図ります。

3. 一貫教育の充実

青山学院では、青山キャンパスに幼稚園から大学・大学院までを擁する特性を最大限に活かし、一貫した「青山学院教育方針」のもと、「キリスト教教育」「英語教育」「国際交流」等を主な柱とした、学校の枠を超えた連携教育に力を入れています。2013年度は下記の取り組みについて推進します。

1) 各設置学校間の連携強化

【女子短期大学】

高等教育として短大・大学を併せ持つ総合学園であるという特色を活かし、女子短期大学には、セカンドステージへの重要な選択肢の一つとして大学への推薦編入という道が開かれています。2012年度に新たな推薦枠の確保を実現したのに加え、2013年度は、推薦編入制度のより円滑な推進のため取り組んでいる「大学との単位互換制度の実現」に向け連携を強化していきます。

【大学・高等部】

高等部と大学では、一貫校ならではの利点を活かし、高等部生が大学の授業へ参加できるようなシステムを構築するための話し合いを進めています。大学生と一緒に授業を受けることは、高等部生にとって、現在実施されている大学・短大の教員による「学問入門講座」とはまた違った意味で、知的探究心の向上にもつながることが期待されます。

2) 4-4-4 制英語一貫教育の実践

【高等部・中等部・初等部】

2008 年度より、青山学院では「英語の青山」の特色をより一層明確にした質の高い授業の実施と円滑な連携を可能とするため、初等部から高等部の 12 年を 4 年毎 3 期に分けた英語教育を実践しており、使用するテキスト「SEED」は一貫して、実際教えているそれぞれの学校の教員が作成しています。この国内で他に例を見ないテキスト作成の取り組みも、残すところ 2 学年分となり、2013 年度は BOOK11 を高等部が作成します。

4. 国際交流の活性化

米国のメソジスト監督教会の祈りと援助から誕生した青山学院にとって、国際交流は長きにわたり教育の重要な柱の一つとなっています。2013 年度も、国際交流の更なる活性化を図り、世界をフィールドとしたグローバルな人材の育成を目指して、下記の取り組みを行います。

【学院・大学】

2013 年度より大学の青山スタンダード科目として単位認定が可能となったオーストラリア・クリスチャンファミリー・ホームステイ・プログラムの実施を通じて、参加学生にキリスト教の体験的理解を図り、同時に異文化理解、英語力のスキルアップを目指し、学生の国際理解度を高めていきます。またフィリピン訪問プログラムにおいても、現地体験を通じて経済的支援が必要な国の現状を理解し、貧困の問題、途上国への支援のあり方について学びます。

【大学】

- ・留学に必要な英語資格試験の一つである IELTS(International English Language Testing System)講座を実施し、英語資格試験への合格支援や英語圏への長期派遣留学に必要な英語力の養成を図ります。
- ・長期留学への動機付けともなる短期語学研修について、2013 年度は特に希望者の多い英語圏の語学研修の充実を図ります。また、夏期及び春期には、米国、カナダ、英国、スペイン、ロシア、韓国、台湾、タイ等への研修プログラムを計画しています。

【高等部】

国際交流の中で「価値観の多様性(diversity)の共有」を目指す高等部では、イギリスのリーススクール及びイタリアパスカル校との短期交換留学等に加え、世界的にも有名な伝統ある英国のパブリックスクールであるイートン校との交流を 2012 年度より実施しています。500 年以上の伝統を誇る名門校との交流は参加生徒に強い印象を残し、言葉の壁を超えた相互理解を実感させるものとなりました。2013 年度は、相互の訪問による交流を重ねていく中で、両校の信頼関係をより一層強固なものとしていきます。

II. 環境の整備

1. キャンパスの再開発

青山学院は建学の精神の基盤であるキリスト教信仰にもとづく創立当初の理念を継承しつつ、21世紀の魅力と特色ある総合学園を可能にするため、キャンパスの再開発事業を進めています。2013年度は、就学キャンパス再配置への対応も含め、下記の取り組みを実施します。

1) 教育課程移行に伴うキャンパスの整備

【大学】

2013年1月、長期的視点に立って大学の方向性を検討する若手教職員を中心とした「将来構想委員会」が発足しました。両キャンパスの位置づけや大学としての両キャンパスの共通意識とアイデンティティーの醸成、従来の複数キャンパス間での教育研究の状況の検証等、この委員会において議論を重ね、本学のあり方についての方向性と新たな構想を打ち出していきます。

2) 新図書館棟の建築

【大学・法人】

2012年度に引き続き、新図書館の建築への取り組みを進めていきます。単位の実質化(授業と授業外学修の一体化の取り組みによる単位認定)を実現できる図書館の建築に向け、2013年度は基本設計案の精査及び実施設計の検討を行う予定です。

3) 高等部校舎の建て替え

【高等部】

2013年度は、校舎建て替え工事第Ⅲ期(2012年4月～2014年8月)として体育館建築の2年目となり、地上躯体工事を行い、工事外装・内装・設備・セキュリティ面を微調整しながら建築工事を進めます。また2014年度の竣工に向けて、引越し及び運用策定の準備も行います。

4) 中等部校舎の建て替え

【中等部・法人】

中等部では、2012年度より新校舎の建て替えに向けた準備に取り組んでいます。2013年度は、建築コンセプトを決定し、設計者の選定を進めていく予定です。

5) 既存設備の整備

【法人】

各設置学校で管理している校外施設は老朽化が進み、施設本来の目的や現状のニーズにあわないものも見受けられることから、より快適に、便利に利用できる施設とするため、集約も含めた見直しを行い、施設の整備と有効活用を検討していきます。

【女子短期大学】

女子短期大学では学科改組に伴い生じる空き教室の有効活用に取り組み、教育環境の整備に努めています。2013年度は、就学キャンパス再配置に伴う大学への施設供用も今まで以上に重要となることが予想されており、大学からの教室利用希望への円滑な対応にもつなげていきます。

【幼稚園】

保育における園児の安全確保は、幼稚園として最も重要な事項です。将来的に園舎の建て替えを行うまでの間、幼稚園では動線等の見直しをふまえた改修計画を策定して計画的・段階的な

施設の整備を行っており、2013年度は、2014年度からの5か年計画を策定する予定です。

2. 学生への支援

学生が安心して学業に励み、より充実したキャンパスライフをおくることを可能とするため、下記の計画を中心に学生支援を続けていきます。

1) 学習支援

【大学】

- ・高等教育のユニバーサル化による多様な入学者に対応し、大学生の学修行動、生活行動、価値観や将来の進路意識等を把握し、大学としての対応策、予防策、推進策を展開するために、また大学教育、環境の改善や労働市場から求められている課題に向けて、今まで蓄積された経験に加えてデータを活用することを目的として、2014年度からのシステム導入を目標に、2013年度にワーキンググループを発足させ具体的な検討を進めていきます。
- ・学生の自立的成長を促す多面的な支援体制を構築するため、大学では入学から卒業・就職までの4年間を通じ学年ごとに学生意識調査を実施しており、その調査結果は、大学として蓄積し分析するだけでなく、学生個人へのフィードバック、フォローアップ講座の開催等により学生の支援につなげています。2013年度は、全教職員を対象とした報告会を実施し、FD・SDの側面からもこの貴重なデータの活用を図ります。

【初等部】

児童一人ひとりが「かけがえのないひとり」であることを実感し、悩みや不安を気軽に相談することができるよう、初等部では「教育相談員の配属」及び「カウンセラーの常駐化」を実施し、これらと教員が連携する体制を整え、児童への個別の支援を充実させます。

2) 経済的支援

【学院】

建学の精神の具現化を趣旨とし、宗教センターに過去から現在までに在籍した事務職員有志の出資により、キリスト者学生及び求道中の学生で学業の継続が経済的に困難な者を対象として設立した「宗教センター奨学金」について、大学生への給付人数の拡大を目指します。

【大学】

大学では、経済的支援を必要とする学生のため多くの奨学金制度を設けています。2012年度は、緊急不測の事態で学費等支弁が困難となった4年次生を対象とした「青山学院大学経済援助給付奨学金」を新たに設立し、学生が卒業を控えた4年次で勉学の道を諦めることがないよう支援を始めました。2013年度もこの奨学金を継続し、将来的に給付額の拡大を図ります。

【初等部】

初等部では、保護者への経済的支援を目的とした奨学金制度の確立を検討しています。2013年度は、2015年度の施行を目指し、原資の確保の調査・検討等を進めていく予定です。

3) 進路・就職への支援

【大学】

- ・厳しい就職状況の中、主要私立大学の中で本学の就職率はトップクラスに位置していますが、2013年度は学生への更なる手厚い支援を目指し取り組みを進めます。専任職員の他にキャリアカウンセラーが常時複数名対応可能な体制を整備し、電話での対応も実施する等、学生からの相談への対応体制を強化するほか、ハローワーク、私学事業団就活サポートセンター、

各県の UI ターンセンター等の外部機関とも連携し、多方面から支援を行っていきます。
・全学共通の教育システム「青山スタンダード」には、学生の職業観・勤労観を養成し、就業力の向上を促すため、キャリアデザインに関するカリキュラム体系が構築されています。2013 年度は仕事力と職業選択力養成を目指して科目を拡充し、一層の内容の充実を図ります。

【女子短期大学】

進路・就職支援行事と現代教養学科における「キャリア・ライフ・デザイン(CLD)科目」との連携を強化し、学生のニーズに合った就職支援体制と行事内容を検討します。また 2012 年度に設置したキャリア支援室の試験運用開始に伴い、進路・就職関係資料の整備やカウンセリング体制の確立を進め、継続的で手厚い就職支援・進路指導の実現を目指します。

4) ボランティア活動の支援

【大学】

2013 年度は、ボランティアステーションの活動を継続・発展させ、「ボランティアセンター」を新たに発足するための検討を行っていきます。センターでは、ボランティアステーションの活動を恒常化・細分化し、活動の場として国内外の両方を視野に、国内では身近な「地域社会貢献」と「被災地支援」、海外では「国際協力活動」を実践していきます。

3. 教職員への支援

青山学院の発展のために教職員の資質向上は重要であり、学内では多岐にわたる研修や取り組みが実施されているほか、学外の研修へも多くの教職員が参加しています。

【法人】

職員のモチベーション向上と組織の活性化を図るため、表彰制度について取扱要項を定め、2013 年度から周知・運用の予定です。また、2012 年度からトライアル導入したメンター制度・WEB 研修システムについては、2013 年度から正式導入し、職員の資質向上と支援に寄与していきます。

【初等部】

社会的に近年数を増している発達障害児童対応の勉強会を実施し、多動性障害等の児童への教員の理解を深めます。また、専門カウンセラーを迎え、現場の学級運営、学習指導、その他の児童との関わり方について研修することで指導者・教育者としてのスキルを高めます。

4. 学院史編集と学院史資料展示への取り組み

1874 年以來の伝統を持つ青山学院の歴史を広く社会へ周知することは、学院への理解と関心を高め、ひいては学院の更なる発展にもつながると考えています。

【学院】

- ・2024 年に創立 150 周年を迎える記念事業の一環として「青山学院 150 年史」(仮称)発刊の準備を進めています。2013 年度は、発行スケジュールや執筆体制等の計画を検討します。
- ・青山学院草創期からの貴重な資料を見学できる展示室の開室に向け、準備を進めています。先人の知恵や苦労に向き合い歴史や伝統を感じられる場として、また、過去と現在を未来に引き継ぐ場として最適なものとなるよう、取り組みを進めます。

Ⅲ. 戦略の強化

1. 危機管理

青山学院では「安全に安心して」過ごすキャンパス運営を目指しており、2013 年度も、災害時における防災体制の強化と、コンプライアンスにもとづいた危機管理への取り組みを継続して行います。

1) 大災害対策

【法人】

- ・青山学院では、地震発生時に、園児・児童・生徒・学生と教職員が安全確保のための的確な行動をとれるよう、2012 年度に「緊急地震速報」システムを全設置学校に導入しました。2013 年度は、従来各学校で行っている防災訓練でこのシステムを活用し、教職員・学生等にシステムの周知を図るとともに、防災意識の向上を図ります。
- ・災害時に園児・児童・生徒・学生に対するキャンパス内での安全・安心を確保し、同時に帰宅困難者の受入れ等社会的使命に取り組むためには、教職員の大きな働きが必要であることから、教職員の安否確認システムを導入し、防災体制の強化に努めます。

【大学】

就学キャンパス再配置に伴い、青山キャンパスでは学生数が増加することによる混雑が予測されています。これに対応するため、大学では、災害発生時に受講表を活用して曜日時限ごとの学生避難場所を把握する時空間情報システムの開発と検証を進めるとともに、法人と連携し、危機管理マニュアルを基にした防災訓練を含めた防災対策の検討を恒常的に行っていきます。

【女子短期大学】

女子短期大学では、災害発生時に速やかに安全確保や適切な判断にもとづく行動がとれるよう、学生・教職員が一体となった避難訓練を実施しています。2013 年度は、これまでの訓練実施経験をふまえて参加者数の増加を図るなど、訓練の実施形態の改善を進めます。

2) 園児・児童・生徒・学生の学内外の安全強化

【法人】

大学の就学キャンパス再配置に伴い、通学路となる渋谷・表参道の両駅とキャンパス間で生じる諸問題について、各設置学校と連携して適切な対策を講じ、トラブルの防止に努めていきます。また、近隣との円滑な関係維持を図り、本学に通う園児・児童・生徒・学生の安全強化につなげます。

2. 財務力の強化

キャンパスの整備事業や教育研究のさらなる充実・発展のためには、基盤となる財務力の強化が必要であり、青山学院では、中長期的な視野に立ったの財政運営に取り組んでいます。収入面では、受託研究費等外部資金の積極的な導入、競争的補助金の獲得、「青山学院 エバーグリーン募金」をはじめとする寄付金の積極的な受入推進等、帰属収入の安定的確保を目指します。また支出面では、既存の制度や経費の徹底した見直しを行い、教育研究活動に支障をきたさない範囲で支出を削減するとともに、コスト削減につながる業務の効率化を推進し、帰属収支差額の拡大に努めてまいります。

【法人】

- ・2013年4月より、財務部に補助金課を設置し、私立学校経常費補助金等の申請について、私学事業団との交渉や学内関連部署の対応等、補助金関連業務の効率化を進めます。

また、補助金の最新の動向や仕組み等について情報収集することにより、補助金収入のさらなる拡大に努めていきます。

- ・募金事業局では、青山学院エバーグリーン募金の柱のひとつである青山学院維持協力会募金について、2013 年度も引き続き、会の存在と目的をご理解いただき、会員の増強に努めてまいります。また、長きにわたるご支援に対し、感謝の意をお伝えするための顕彰制度や特典の整備を検討していきます。
- ・業務効率化の実現に向け、2012 年度は印刷環境の最適化に取り組み、最適化のポリシーのもとつき、事務系プリンターを複合機に一本化する形でリプレースし、大幅に台数とコストの削減を実現しました。2013 年度は、印刷環境の最適化の次のステップとして、学内会議体のペーパーレス化に取り組みます。

3. 組織・運営体制の強化

長きにわたり多くの先人が築いてきた伝統を守りつつ、学校を取り巻く環境の変化に対応し、青山学院の新しい時代を確立するために、さまざまな角度から組織・運営体制の強化、整備に取り組んでいきます。

1) 広報体制の強化

【大学】

- ・2013 年 4 月、大学には政策・企画部が設置され、大学執行部による戦略的広報を目指します。これにより、大学が本来担っている、ステークホルダーや社会に対して大学の有する基本情報や学問研究の成果等を発信して社会に貢献する使命を果たすとともに、学内の情報収集機能を強化し、収集した情報を精査して、受け手が必要とする情報をタイムリーに提供する仕組みを構築していきます。
- ・主要な私立大学の中でトップクラスに位置している本学の就職率の高さや、企業からの高い評価について広く社会に周知するため、2013 年度は入学広報部と進路・就職部の連携をさらに強化し、本学の就職結果や就職サポート体制等を積極的に発信し、各種媒体にも掲載していきます。また、2013 年度からの同一キャンパスでの 4 年間一貫教育の中で展開される特色ある教育プログラムについても具体的に発信し、ブランドイメージの強化を図ります。
- ・教員や研究成果に関する情報は、大学の情報開示において特に重要視されていることから、「研究者情報データベース」について教員がより効率的に自身の情報を更新できる仕組みを整備して掲載内容の一層の充実を図っていきます。

【高等部】

高等部では帰国生を積極的に受け入れており、欧米のみならず近年アジア圏からの帰国生も増えています。帰国生の入学は、生徒の国際理解の促進や価値観の多様性の共有につながる等、様々な相乗効果が見受けられます。2013 年度はアジアを中心とした日本人学校訪問などの広報活動を継続し、より新しい情報の提供を行い、本校の魅力を伝えていきます。

【初等部】

初等部のホームページでは、雪の学校や洋上小学校での毎日の児童の様子等をタイムリーに更新し、電子媒体ならではの広報を行っています。これに加え初等部では、紙媒体である「初等部だより」の発刊により「誰でも気軽に手にし」「誰の目にも留まる」広報を展開することへの取り組みを進めており、2013 年度は「初等部だより」第 1 号を発刊する予定です。

2) 入試広報体制の強化

【大学】

- ・2013年度の就学キャンパス再配置にともない、2012年度より関東近県の青山キャンパスへの通学可能地域を中心とした入試広報活動を強化してきましたが、2013年度は、関東近県における各種イベントでの広報活動の実施や、東京及び関東近県の高等学校進路指導教員を対象とした説明会の実施、予備校からの大学説明会の依頼に対する積極的な対応などにより、一層の志願者の掘り起しにつなげていきます。
- ・入学志望者にわかりやすい制度とするため、また受験機会の拡大を図る上でも、多様な入試制度を簡素化することは重要な課題となっています。試験時間や選択科目、方式等、多面的に検討と議論を重ね、より良い入試制度の実施を目指します。
- ・本学の教育理念への深い理解を持つより質の高い学生の確保のため、推薦入試制度の拡充や提携校推薦制度改善の検討を進めていきます。

3) 企画立案機能の強化

【大学】

大学執行部が「より効率的で戦略的な大学運営や意思決定を行う」ため、政策・企画部を設置し、大学内外に関する諸データの収集・分析、及び将来構想を企画・立案する機能の強化を図ります。これにより、明確な企画・戦略能力を持った大学執行部体制の確立を目指します。

4) 事務組織の再編

【法人】

2013年4月より、就学キャンパス再配置に伴い再編された大学事務組織がスタートします。この再編により、青山・相模原両キャンパスの事務組織構造の共通化と業務区分の明確化が可能となることから、2013年度は本来の分掌に基づく業務再配置をとおり、適正人員の配置を図ります。

5) 情報系の整備

【学院・大学】

- ・2013年4月に新組織「情報メディアセンター」を開設し、同時に新教育研究システムを導入して、青山学院の教育・研究活動に寄与するICT環境の提供のみならず、ICTを活用した教育の質向上、研究の推進を行うための様々なサービスを提供していきます。
また、教職員・学生等の情報環境利用者の利便性向上のため実施を検討してきたワンストップサービスについては、2013年度より情報関連組織を中心に先行してスタートし、その後、関連する部署との連携を深めていく予定です。
- ・情報機器の基本的な操作及び、情報倫理に関する知識習得のための全学部共通の必修科目「情報スキルⅠ」を2014年度より新たな教育目標と内容で開講することを目指し、検討を進めていきます。また「情報スキルⅡ」を青山キャンパスと相模原キャンパスをつなぐ同時双方向の遠隔授業とする準備を進め、2013年度内の遠隔授業の実施を目指します。
- ・情報メディアセンターの発足により、2つのキャンパスの利用者委員会と各設置学校をつなぐ利用者委員会を立ち上げ、大学及び各設置学校における情報基礎教育に関する検討を進めていきます。

6) 人事制度の見直し

【法人】

- ・人的資源の効率配分を実現するための施策として、2012年度に業務の高効率化、労働環境改善、超勤縮減とそれに対応する労働力の有効活用と合理的配分を図ることを目的に、有期職員制度を創設しました。2013年度は、有期職員制度の有効活用に資する運用方法の検討を進め、これにより人員の適正配置と人的資源の効率配分につなげていきます。
- ・「人を育てる」理念に沿い、より納得性の高い人事制度の実現のため改定人事制度を2013年4月より導入します。また研修制度の整備と能力活用向上のため、青山学院職員として必要とされる知識や技能について体系的に修得を目指す「青山塾」を実施し、より計画的な人材育成を図ります。

4. 校友との連携強化

財政支援や学生・生徒との関わりをとおしての支援など、校友からの貴重なご支援は青山学院の発展に欠くことができないものです。2013年度も下記のような取り組みを進め、校友との連携強化を図ります。

【学院】

- ・校友会支部の認知度向上と在校生の就職活動支援につながることを目指し、校友会支部と連携して、地区で行われる「大学後援会」事業活動の一環であるペアレンツウィークエンドに、地元で就職した校友や校友が関係する地元企業にご参加いただく取り組みを、2013年度も継続して実施します。
- ・年3回発行している広報紙「あなたと青山学院」は学院と校友をつなぐ効果的な媒体であり、学院の今を伝えるタイムリーさと、校友参加型の企画を今後も実施していくことで、母校に対する関心を喚起し、愛校心の育成につなげていきます。

【女子短期大学】

女子短期大学では、毎年各学科順番に卒業生や退職教職員をお迎えしてホームカミングデーを実施していますが、卒業生の新たな愛校心発露の場とするため、ジュビリー制度導入の検討を進めています。2013年度は同窓会とも連携を深めて検討し、制度の概略を決定する予定です。

【初等部】

初等部では、以前から初等部OBやくすのき会からの要望があった、初等部卒業生に限定した婚礼挙式のための米山記念礼拝堂の貸し出しや、同窓会への初等部施設の貸し出しを実施します。これにより、卒業生の学院への愛着を高め、愛校心の強化につなげていきます。

〈補足事項〉

P.4 から P.13 に掲載されている事業計画内容について、法人執行部及び本部事務部署にて行う計画のうち、「教育・研究・学術」に係る計画については【学院】、「経営・管理」に係る計画については【法人】と表記しています。

学校法人青山学院 2013年度事業計画

命題数字	青山学院が探求すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画	中期計画	事業計画	担当部署	SQ	
I	人間教育の再創造	[I]	キリスト教教育の促進	キリスト教教育の社会における実践	「共生委員会」を通じてグローバルな視点からこの世の様々な問題に目を向けるための啓蒙活動の展開及び新規プログラムの設置	岩手県立宮古高校(被災地の高校)との交流	高等部	1	
					キリスト教活動の見直しと充実	チャイルドファンドジャパン・フィリピン訪問プログラムへの参加	高等部	2	
					2013年度教育課程の移行に伴うキリスト教活動の見直し(青山キャンパス)とキリスト教活動の活性化(相模原キャンパス)	法人(宗教センター)	3		
					学院創立140周年記念式典に向けた準備	法人(宗教センター)	4		
					教職員対象の聖書研究・スモールグループの形成等方法論の確立	教職員聖書研究や祈りの会の実施	幼稚園	5	
		[II]	教育・研究の活性化と充実	新たな教育体制の確立と推進	高等学校の設立	相手校の選定、交渉開始及び基本合意	法人(法人執行部・総合企画部)	6	
					情報通信システムの整備と安全な運用および情報管理・運用システム機能の強化	教育・研究環境の高度化と充実を図るための情報系組織の再編	次期ICT戦略策定委員会	7	
					情報メディアセンター(仮称)によるワンストップサービスの実現と情報基礎教育の強化準備	ワンストップサービスの充実化に向けた点検・調整と青山キャンパスにおけるワンストップサービス提供開始の準備	次期ICT戦略策定委員会	8	
					生徒に対する放課後の学習サポート体制の検討	中等部	9		
		[III]	一貫教育の推進	一貫制英語教育の強化	SEED BOOK10-12 完成	SEED BOOK11の完成	高等部	10	
					設置学校間の連携強化	短・大連携:編入学卒の発展的拡大	大学との単位互換制度実施検討	短大	11
					設置学校間の連携強化	高大連携:高等部生の大学への授業の参加を可能とするシステムの構築	高等部生が大学の授業への参加を可能とするシステムを構築するための具体策検討	高等部	12
		[IV]	国際理解教育の推進	国際交流の強化	世界をフィールドとしたグローバル人材の育成支援	海外への留学を促進するための語学・文化研修等の充実	大学	13	
					海外の学校との交流の充実	英国イートン校との交流	高等部	14	
II	環境の整備	[I]	キャンパスの整備	既存施設の整備	短大校舎の有効活用	学科改組による定員減に伴う空き教室数調査	短大	15	
				安全と機能性を重視した施設環境の整備		施設の計画的整備の検討と実施	幼稚園	16	
				青山キャンパス再開発	新図書館棟建設	建築に係る確認他必要な手続きの実施	大学・法人(法人執行部・総合企画部)	17	
				青山キャンパス再開発	高等部校舎建て替え	第Ⅲ期体育館工事	高等部	18	
				青山キャンパス再開発	中等部建て替え準備	設計者選定および基本設計・実施設計の確定	中等部・法人	19	
				『青山学院150年史』(仮称)の発行		『青山学院150年史』(仮称)編纂委員会を立ち上げ、活動を開始する	法人(資料センター)	20	
				歴史博物館相当施設設立の検討		間島記念館での展示準備	法人(資料センター)	21	

学校法人青山学院 2013年度事業計画

命題 数字	青山学院 が探求す べき命題	課題 数字	命題を構 成する柱と なる課題	長期計画	中期計画	事業計画	担当部署	SQ
Ⅱ	環境の 整備	〔Ⅱ〕	学生等への 支援	学生の教育・生活 環境の改善	学生支援ネットワークの強化	学生意識調査にもとづく学生支援 体制づくり	大学	22
				進路・就職への支 援	就職相談体制の強化	学生の自律した就職活動への支援 体制の強化、及び専門資格を有し た人材の確保による個別相談の充 実と外部機関を活用した卒業生へ の相談体制の確立	大学	23
				進路・就職への支 援	キャリア・ライフ・デザイン科目 との連携	就職支援行事と新学科キャリア・ラ イフ・デザイン科目との連携検討	短大	24
					経済的支援体制の確立として 奨学金の充実を図る	初等部独自の奨学金制度を確立 するための原資および体制の検討	初等部	25
		〔Ⅲ〕	教職員へ の支援	研修活動の支援	専任教員の研修(内・外)の充 実	発達障害児童対応の勉強会を企 画	初等部	26
						表彰事由の充実	法人(人事部)	27
Ⅲ	戦略の 強化	〔Ⅰ〕	ガバナンス の強化	危機管理に関わる 様々な取り組みの 実践	大災害対策の整備	教職員の安否確認システム導入	法人(総務部)	28
						緊急地震速報導入の周知を兼ねた 防災訓練の実施	法人(総務部)	29
					園児・児童・生徒・学生の学校 内外の安全強化	キャンパス移行に伴う通学路対策	法人(総務部)	30
					コンプライアンス体制の確立と 周知・実行・チェック	個人情報保護に係る体制の整備	法人(総務部)	31
				危機管理に関わる 様々な取り組みの 実践		避難訓練の実施と訓練内容充実の ための検討	短大	32
				大学執行部の機能 の充実	企画立案機能の強化	政策・企画部の拡大と機能強化	大学	33
		〔Ⅱ〕	財務力の 強化	コスト改善・改革の 実践	業務の効率化と見直し	雇用形態別の業務仕分けによる各 部署業務の見直し及び印刷環境の 最適化による業務及びコストの改 善	法人 (法人執行部・ 総合企画部)	34
				校外施設・学生寮 等の整備・有効活 用によるコスト改善	校外施設の見直し	校外施設の現状と方向性の確認	法人 (法人執行部・ 総合企画部)	35
					青山学院維持協会の会員 制組織、制度の充実	青山学院維持協会の会員増加 の施策	法人 (募金事務局)	36
		〔Ⅲ〕	広報の充 実	効果的な広報の実 践	大学広報体制の確立	大学戦略広報部門の設立(大学戦 略企画と広報の充実)	大学	37
						法人広報部が着手しているWebサ イトリニューアルへの協力(受験生 向けモバイルサイトの充実を含む)	大学	38
				効果的な広報の実 践	紙媒体等による保護者・卒業 生に対する広報	初等部便りの発刊	初等部	39
				「教育力」「就業力」 等のブランドイメ ージの強化	教員の研究活動等に関する データベースの充実と効果的 な情報発信	大学HP掲載『専任教員紹介』と『研 究者情報DB』の現行システムの検 証及びより効果的な利用を促進す るための方策の検討	大学	40
					大学・短大の「就業力」と「教 育力」のイメージアップに特化 した広報の展開	就業力、教育力の情報収集、及び これらに特化した外向けニュースの 発信の強化	大学	41
			海外向け広報の充実	教員による海外での広報活動	高等部	42		

学校法人青山学院 2013年度事業計画

命題 数字	青山学院 が探求す べき命題	課題 数字	命題を構 成する柱と なる課題	長期計画	中期計画	事業計画	担当部署	SQ
Ⅲ	戦略の強化	[Ⅳ]	入試の強化	受験生の量的・質的確保	地域的な志願者の掘り起こし	関東近県を中心とした入学志願者の掘り起こし	大学	43
					入試体制の整備	推薦入試制度の拡充(指定校対象校の検討、募集人員枠の拡大の検討)	大学	44
						提携校推薦制度の検討	大学	45
						一般入試制度の簡素化(方式・出題)	大学	46
		[Ⅵ]	校友との連携強化・愛校心の育成	卒業生との連携強化の検討による新たな制度の確立	ホームカミングデー制度の見直しと更なる内容の充実を図る	ジュビリー制度導入の検討	短大	47
					愛校心の育成強化	初等部施設を有効に活用し、卒業生に利用してもらおう	初等部	48
						地区開催のペアレンツウィークエンドにおける校友会支部との連携促進	法人(校友センター)	49
						広報紙「あなたと青山学院」を再度見直し、校友に対する充実した広報の検討とその実施を図る	法人(校友センター)	50
		[Ⅶ]	組織の整備・業務の見直し	人事制度の見直し	適正人員にもとづく職員の適正配置	人的資源の効率配分を実現するための施策の実施及び運用方法の確立	法人(総合企画部)	51
				人事制度の見直し	適正人員と報酬体系の見直し	改正人事制度の段階的实施	法人(人事部)	52
				新組織の確立	青山キャンパス事務組織の再編と業務効率化	業務効率・コストの改善をふまえた事務組織再編の検討	法人執行部・改革推進本部	53

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
【青山学院スクール・モットー】

学校法人青山学院 2013年度事業計画書 (2013年4月発行)

(問合せ先) 本部 総合企画部 03 (3409) 6384 内線 11338

※学院 HP からも PDF 形式にてご覧いただけます

[ホーム](#) > [青山学院の基本情報](#) > [青山学院のデータ](#) > [財務状況](#) 事業計画書・事業報告書
